集中 OPINION

国の安全保障を政策の核に据えて「当たり前の先進国」の実現目指す

東 国幹

衆議院議員
財務大臣政務官

昨年10月に行われた衆議院選挙は、与党の過半数割れという結果に終わり、自民・公明両党は難しい政権運営を迫られる事になった。自民党派閥の政治資金収支報告書への不記載問題や、自民の選挙戦略の誤り、石破茂首相の発言のブレ等幾つか敗因は挙げられるが、いずれにせよ与党議員にとっては厳しい選挙だった。そうした逆風の中、「日本の医療の未来を考える会」の国会議員団メンバーの東国幹氏は北海道6区の激戦を制して、2回目の当選を果たした。第2次石破内閣では財務大臣政務官を務める事が決まった東氏に、地元北海道の成長戦略や、今後の医療行政、自身の政治信条等について話を聞いた。

――第50回の衆院選挙を振り返って如何ですか。

東　私の選挙区の北海道6区は都市部と過疎地が混在していますが、やはり都市部を中心に、我が党の政治資金収支報告書の不記載問題に対して厳しい声が有りました。只、大都市とは違って、社会インフラの整備が遅れている部分が有り、交通網の整備や農業を進める上での環境整備、医師の不在といった課題の解決を求める声も大きかった。政権与党に期待する声も頂き、厳しい指摘と期待との両方を感じた選挙でした。そんな中、地域毎に後援会組織を作って頂き、多くの有権者の支えが最後に功を奏して、お陰様で再選を果たす事が出来ました。

――激しい選挙戦でした。

東　同じ選挙区から出馬した西川将人氏とは、旭川市長選を含めて3回目の戦いで、市長選では私が敗れています。今回も、選挙前から地元で精力的に政治活動をされている事は耳にしていましたから、私達の陣営も厳しい選挙戦になると予想していました。互いに年齢も近く、政治経験も長い。彼も今回、比例代表で当選を果たし、地元では「東西対決」等と言われていましたが、これからも党派を超えて切磋琢磨して行きたい思います。

――選挙後の[illegible]で財務大臣政務官に就[illegible]しました。

東　財務省を[illegible]する[illegible]すが、全力で勉強させて頂[illegible]と思[illegible]財務省はよく「財政規律に[illegible]れた[illegible]った言われ方もします。実際[illegible]ところ[illegible]新たに立ち入る身として官[illegible]や総括審議官に聞いてみましたが、「そう言われ[illegible]るのは事実で、省の性格上、無理もないかも知れない」とした上で、「成長戦略として

続きを読むには購読が必要です
詳しくはホームページをご覧下さい